

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センター ハートピア出雲スマイル (放課後等デイサービス)		
○保護者評価実施期間	令和 6年 12月 9日		令和 7年 1月 20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39	(回答者数) 32
○従業者評価実施期間	令和 6年 12月 16日		令和 7年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 10日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・児童の特性に合わせて、構造化した環境を設定し療育をおこなっていること	・児童が自立して行動が出来るようにスケジュールを個々に評価し提供していることや児童の理解に合わせて視覚支援を行っていること	・研修等に参加し、より良い支援を提供できるように取り組む
2	・20人という大きな集団であることもありたくさんの児童との関わりを持って活動を経験することが出来ること	・初めは支援者が介入しながら児童同士の遊びを提供するが、支援者の介入を減らし、児童同士で遊びが行える仕組みを提供していること ・遊びの誘い方や断り方を児童に分かりやすい手段(視覚的に伝えるなど)で伝え、実際場面へ般化させていること	・様々な集団での遊びや活動を通して、様々な児童との関わりや遊びが広がるように支援を行うと共に、児童に合わせた参加の方法を提供していく
3	・体を動かし発散できるスペースがあること	・利用児全員で行なえる活動を設定し取り組んでいることや、体を動かして遊べるスペースを子ども同士で共有しながら遊べるように提供している	・色々な活動を児童の理解に合わせて提供し遊びの充実を図る

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・定員に対して部屋数が少なく、個別訓練や休憩、クールダウンの児童が複数人いると部屋が足りなくなること	・個別訓練や休憩ができる個室スペースは少なく、利用するために待ち時間が発生することもある。また、法人内の離れた場所だと職員間の連携が取りにくいことや、1人に対して1人の支援者が対応することが難しい場合がある	・個室の中でバーテーションなどを使用しプライベート空間を区分けすることや、個室の利用時間をスケジュールで管理するなどしていく
2	・利用にあたっての待機児童が多くおられ、利用開始までに待っていたことが多い	・利用児の方に十分な療育を提供するにあたり、定員数に対して現在の人員では、十分に安全で適切な療育を提供することが難しくなることや、学校や自宅までの送迎を行うことが難しいことから利用受け入れが難しいことがある。	・安心してご利用いただくために人員配置の増員を検討していく
3	・多様な障がいを持つ利用児さんが混在している為、同じ環境で同じように遊びや活動を行うことが難しい場面もあること	・広い空間で活発に身体を動かして発散を行いたい児童もいれば、事業所内でも車イスで移動し、活動が制限されている児童もいる為、みんなで同じように楽しんで行う活動は限られてくる	・児童の様子を評価しながらみんなで楽しめる活動やお出かけなどを広げていくことや、活動の中でも環境配慮やルール設定をしてみんなが同じ活動を共有できるような工夫をしていく